

## 第21回 浅川流域協議会

日 時：平成27年 4月17日（金）

午後7：00～9：00

場 所：長野市吉田公民館 大教室

### 1. 開 会

#### ○事務局（浅川改良事務所）

それでは定刻となりましたので、事務局より諸連絡をさせていただきます。私は事務局を務めております、長野建設事務所浅川改良事務所の川上学と申します。よろしく願いいたします。

開会に先立ちまして、事務局より4点ほどご連絡を差し上げたいと思います。

1点目は名札についてのお願いでございます。会員の皆様には、受付でお配りしました名札を会議終了までつけていただき、終了後に受付へお返しいただくようお願いいたします。

2点目は発言についてのお願いでございます。会議中のご意見、ご質問の際には、挙手、起立の上、係の者がマイクをお持ちいたしますので、初めに会員番号とお名前をおっしゃってから発言をしていただくようお願いいたします。行政機関の皆様も、発言の際には初めに所属とお名前をお願いいたします。

なお、流域協議会では、会員以外の方からのご発言はお受けできませんので、傍聴の皆様におかれましてはご承知おき願います。

3点目は本日の配付資料の確認でございます。本日の資料は全部で3種類ございます。1つはA4判の会議次第、1枚物になります。続きまして「浅川流域協議会、平成27年4月17日」と書かれておりますA4判の説明資料になります。最後に浅川流域協議会の開催経緯を示したA4判の資料になります。

会員の皆様には、資料のほかに会員名簿と流域協議会の会則をお配りしておりますので、ご確認をお願いいたします。資料に不備のある方がいらっしゃいましたらここでお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

最後に4点目でございます。本日の会議時間でございます。途中、休憩を挟みまして9時までとさせていただきますのでご協力をお願いいたします。以上、連絡事項でございます。

続きまして、これより第21回浅川流域協議会に移らせていただきますが、流域協議会の会則第9条第2項によりまして、市村座長様に議長をお願いいたします。

それでは市村座長様、議長席のほうへお移りいただきたいと思っております。

それでは、よろしく願いいたします。

### 2. あいさつ

○市村座長

皆さん、こんばんは。今日はお忙しい中、浅川流域協議会にご出席をいただきまして、ありがとうございます。

それではここでちょっと座らせていただきますが、本日の浅川流域協議会はちょうど21回ということ、前は平成25年5月に第20回をやりまして、ちょうどそれから2年たっているわけですが、本日は浅川改良事務所のほうで、いわゆる浅川の排水機場の新設の工場の設置に関する説明が一つです。それともう一つは、現在の浅川の治水対策の現状についてということ、この中には先日3月21日ですか、浅川の崩落地という問題が、土砂の崩落がございまして、その辺の説明も会員の中からぜひ県のほうの説明を聞きたいという要望もございまして、改良事務所のほうにお願いをして、その説明もあわせて、浅川治水対策の現状の中で説明をいただくということにいたしておりますので、そのようにご理解をいただきたいと思っております。

それと休憩でございますが、県のほうで排水機場の説明、それから現状、浅川の治水対策の現状が終わった後に休憩を10分ほどとらせていただいて、その後、質問、意見の交換というようなことで、先ほども説明あったように、9時まではこの会場は借りておりますが、それ以降はちょっと使えませんので、その辺をご理解いただきたいと思っております。

それでは県のほうから排水機場、治水対策の現状についてご説明をお願いしたいと思います。

○小林浅川改良事務所長

ちょっと説明の前に一言ごあいさつさせていただきます。皆さん、こんばんは。私、長野県浅川改良事務所長の小林功と申します。

本日は1日のお仕事のお疲れの後、このような時間にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。また日ごろから長野県の県政の推進、また特にこの浅川の治水対策に関しましてご理解とご協力いただいておりますことに、この場を借りて御礼を申し上げます。

浅川の治水対策でございますが、ご存じだとは思いますが、ダム建設と河川改修につきまして来年、平成28年度の完了というものを目標に置きまして、現在、最終の段階を迎えつつございます。完了に向けて鋭意、工事の進捗を図っているところでございます。

また、浅川下流の内水による浸水対策につきましては、前回、平成25年の5月の流域協議会におきましてご意見をいただきまして、その後の浅川総合内水対策協議会において排水機場の計画についても策定いたしました。現在は国土交通省の事業認可を経て、昨年、平成26年度から事業の着手という形になっております。

本日はその計画に基づきまして、排水機場の建設工事というものを県のほうで発注いたしまして、その工事に近々着手するということのご報告と工事の内

容についてご説明させていただきたいと。また併せまして、浅川の治水対策とダム工事、河川改修工事が現在どのような状況かというようなこともご報告させていただきたいということでございます。ご不明な点などございましたら、忌憚のないご意見をいただければと思います。

簡単ではありますが、開会に当たりましてごあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

### 3. 第21回流域協議会説明の主旨

#### ○事務局（浅川改良事務所 坂口係長）

皆様、こんばんは。私は事務局の長野建設事務所浅川改良事務所の坂口秀人と申します。これより説明をさせていただきますが、詳細な説明に入る前に、本日の説明内容につきまして簡単にご説明を申し上げます。また、説明の際、皆様の前方スクリーンにスライドを映してまいります。お手もとの資料もあわせてご覧いただければと思います。

先ほど市村座長様からお話しがございましたが、前回、第20回浅川流域協議会が平成25年5月14日に開催されてから約2年が経過しようとしておりますが、この間、長野県では、平成25年5月31日に浅川総合内水対策計画を策定し、平成26年度から内水対策事業に着手しております。いよいよ施工の段階となっております。また、浅川の各治水対策事業が進捗をしております。そこで本日は、大きくこちらの2点につきましてご説明を申し上げます。

まず1点目ですが、平成25年5月に策定した浅川総合内水対策計画に基づき実施する施策のうち、ハード対策として排水機場の増設、堤防のかさ上げ、二線堤の設置などがございますが、このうち短期整備に位置づけられた排水機場の増設として整備を進める、仮称浅川第三排水機場の増設工事の実施に関する説明です。

2点目として、浅川の治水対策は外水対策として実施をしております治水専用ダム、河川改修、さらに下流部における内水対策の3本柱となっておりますが、それぞれの治水対策の現況報告でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは引き続き、詳細につきまして担当者からご説明を申し上げます。なお、これより説明は着座にて失礼いたします。

#### （1）増設する浅川第三排水機場（仮称）の工事の実施に関する説明

#### ○浅川改良事務所（北原主査）

引き続きまして、事務局をやっております、浅川改良事務所北原健と申します。1番目の増設する浅川第三排水機場（仮称）の工事实施に関する説明をさせていただきます。着座にて説明をさせていただきます。

先ほどから何回か説明がありましたように、経緯の関係について簡単にもう

一度おさらいをさせていただきます。

平成25年浅川総合内水対策計画が策定された後の関係ですけれども、平成25年度、四角が3つありますけれども、国土交通省へ内水対策の新規事業の要望をしております。それから排水機場の用地確保に向けた地権者交渉、それから排水機場の詳細設計のほうに取りかかっております。

平成26年度です。内水対策の新規事業認可、排水機場の用地・補償契約、それから農業用排水路の付替工事に着手しております。

平成27年度、今年度ですけれども、排水機場土木本体工事に着手いたします。それからポンプ設備工事のほうの着手をする予定でございます。

こちらは浅川総合内水対策計画に位置づけられている関係のメニューになりまして、大きく3つの柱がありました。①浅川改修、それから②流域対策、最後に③被害軽減対策、それぞれ5カ年の短期整備と中長期整備に分けておりまして、今回の14トンが短期整備に位置づけられる排水機場の整備という位置づけになっております。

こちらは浅川第三排水機場のイメージ図になりまして、浅川が千曲川に合流する地点の鳥瞰図という形になります。手前から奥に向かって浅川が流れておりまして、その奥、千曲川が右から左に向かって流れています。

この場所には幾つかの管理施設がありまして、まず浅川の右岸側、こちらのほうには長野市が管理しております既設の第一、第二排水機場があります。千曲の堤防の堤外地側、国が管理します浅川樋門があります。

そして今回の説明の主たる部分ですけれども、浅川の左岸側、こちらのほうに浅川第三排水機場を建設するという予定になります。水色で見えている区間が今回、工事をする範囲ということになります。

それぞれの設備の名称、これから若干詳しい説明をしていきますので、設備の名称のほうの紹介をさせていただきます。

まず浅川から排水機場に向かって水を飲み込む部分、こちらのほうを導水路というふうに呼んでおります。導水路から機場の建屋のほうに水が向かいますが、ごみを取り除くための除塵機がその手前に設置されます。それから機場の建屋、そしてその奥側にあるのが吐出水槽、右側に向かいまして支川ゲート、千曲の堤防をくぐっている函体、それから浅川樋門ゲートと、こういった名称がこれから出てきます。名称、位置関係についてはこのような形になります。

次に、樋門・排水機場の機能について説明をさせていただきます。

まず通常時です。浅川の水は千曲堤防の堤体内につくられた函体を通して、浅川樋門ゲートから千曲川に排水されます。

下の図は、右から左に向かって水が流れております。こちら千曲の堤防の中、函体から樋門ゲートを通して千曲に排水されます。こちらが常時の水の流れになります。

こちらは洪水時です。洪水時になりますと千曲の水かさが増えます。そうすると、浅川への逆流を防ぐために浅川樋門ゲートを閉じます。今、樋門ゲートが3つありますけれども、赤いゲートが下がっておりまして、千曲の水が上が

っても逆流がしないような形になっております。逆流はしないのですけれども、このままだと出口をふさがれて浅川の水かさが上昇して人家ですとか田畑に浸水被害を及ぼすこととなります。ここで浅川の水を千曲川へくみ出すための排水機場が必要になってきます。

ポンプとゲート、そういった操作の関係がわかりづらいので、模式化した図面をもって説明を行いたいと思います。

常時、浅川の水につきましては、先ほども説明をしましたが、千曲川堤防内の函体を通して浅川樋門ゲートから千曲川へ排水されます。

こちらの位置ですけれども、浅川が先ほどと同じように右から左に向かって流れておりまして、設備の関係、一番右側がポンプ、支川ゲート、その左側は吐出水槽、千曲の堤防がありまして、浅川樋門がその左側に配置される。さらにその左側に千曲川という位置関係になります。

洪水時です。洪水によって千曲川の水かさが増えると、浅川への逆流を防ぐために浅川樋門ゲートを閉じます。左側にあります浅川樋門ゲートを閉じます。そうすると洪水時、その2ですけれども、浅川水位が上昇しまして浅川樋門ゲートを開きます。浅川樋門ゲートを開きます。支川ゲートを閉じた、こういった状況をつくった上でポンプ、排水機場のポンプで水をくみ上げて千曲川に排水するという状況になります。

先ほどの模式図をまとめると下のような状況になります。ちょっと立体化したような形の図面になります。

まず浅川樋門ゲートのうち、こちら3つゲートがあるんですけれども、赤い左側の2つ、HG 3、4が閉まっております、AG 5が上がっている状況がつくられます。そういった中で、浅川支川ゲート、右側奥がちょっと見づらいんですけれども、支川ゲートを閉じます。こういった状況でポンプを動かしますと、浅川の水がポンプから吐出水槽、函体を通して浅川樋門第5ゲート、こちらのほうから千曲川へ排水されるという形の構造になります。

先ほどのイメージ図の中で水の流れについて説明をもう一度しますと、まず浅川の水は導水路を通ります。除塵機のところでごみを取り除かれた状態で建屋の中に入っていきます。ポンプで吸い上げられて、吐出水槽、水の流れが若干変わります、支川ゲートの奥側の函体を通して千曲川の樋門ゲートから千曲川へ排水されるという状況になります。

こちら、工事の関係の平面図と断面図になります。色分けにつきましては、赤が土木の工事、黄色が建築の工事、緑が設備の工事、設備というのは、ポンプの本体、それから除塵機、それとゲート、こちらの3つの工事を設備工事というふうになって言いあらわしております。緑色の部分になります。

左上にありますのが平面図になりまして、平面図の中に1-1ですとか、2-2とかというふうに書いてありますけれども、こちらのところで断面を切っております。平面の関係につきましては、水色の部分が浅川、浅川が右から左に向かって流れておりまして、千曲の堤防が左側にあります。赤く着色しているところ、土木の工事とダブりますけれども、今回買収しております土地の範

囲、およそ30メートル掛ける90メートルの範囲になります。

まず1-1断面の関係を見ていただきたいのですが、赤色の部分が土木の工事として、赤色の土木の工事の下側のところに縦の棒みたいなものが幾つかあります。こちら構造物を支える杭基礎になります。この杭でその上にありますコンクリートの構造物を支えるという状況になります。

さらにこちらの土木の構造物の上に黄色の建築構造物を載せると、そういった状況ができた後に、中にポンプ、除塵機、そういった設備の工事を行うという状況になります。

こちら平成26年、平成27年、平成28年の工事の予定をあらわしております。線が引いてありますけれども、上から物件移転、それから土木の工事、土木の工事が赤色、建築の工事が黄色、機械設備が緑で、電気通信をグレーであらわしております。

平成26年には物件の移転、それから平成27年・28年にかけて土木の工事、建築が27年の終わりから28年、設備の工事が27年から28年、電気通信がその後、27年から28年という形の工事になっております。

今回、こちらの工事の関係ですけれども、4-4断面、別のところで切っておりますけれども、土木の工事の多くを北野建設さんのほうで施工していただくということで契約をしております。

今回の流域協議会のほうに北野建設さんをお呼びしておりますので、若干、ごあいさつのほうをお願いしたいと思います。

#### ○北野建設

土木工事を担当します北野建設の胡桃宏充と申します。地元の方々、それとあと長野県の方々と連絡を密にしてよりよいものをつくっていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

#### ○浅川改良事務所

赤色の部分のところの多くを今回、北野建設さんのほうで施工してもらうということになります。

それから、設備の工事の関係ですけれども、今、工事の公告をしております、今後、ポンプ本体の工事業者が決まってくるというような形で現在、掲示しております。

浅川排水機場の建設を行う中での工事用車両の通行ルートについて説明をいたします。若干、先ほどの基本的な説明の範囲を少し広げておまして、真ん中に見えるのが千曲川になります。千曲に合流する浅川が流れておまして、緑色の丸印が今回の工事箇所です。

真ん中辺にあります黄色い棒みたいなもの、そちらが小布施橋、それから千曲川と並行して走っておりますのが18号、その奥に飯山線が走っております。工事の関係ですけれども、工事用車両につきましては、赤線と青線で土を出したり入れたりというような形の工事がされます。

それから土の他にもコンクリートですとか資材の搬入というような形が想定されまして、地元にはそういった中で延長がありますけれども、工事用車両につきましては地元車優先で通行したいと思えます。

長野方面からの車両につきましては小布施橋堤防道路を經由しまして、18号の現場入り口での渋滞を抑制いたします。長野方面の車両は鳥居川にかかる鳥居橋横で18号に入りまして、小布施橋までの堤防道路を大型ダンプが往復しないようにいたします。工事用車両の通行台数が多い日につきましては、小布施橋左詰め、国道18号出入り口部に交通誘導員を配置するような形で工事を進めるということになります。

以上で、浅川第三排水機場の工事实施に関する説明を終わりにします。

## (2) 浅川治水対策の現況についての報告

### ○浅川改良事務所

続きまして、浅川治水対策の現況についてご報告をします。

この図は、左側が浅川の上流、右側が下流となっております。浅川の治水対策は外水対策として実施をしております治水専用ダム、河川改修、さらに下流部における内水対策の3本柱となっております。

このうち外水対策は、画面左側の治水専用ダムについてですが、平成23年9月からダム本体のコンクリート打設を開始し、昨年、平成26年7月2日に打設が完了いたしました。写真は平成27年1月2日にダム下流部から撮影したものです。平成27年度は管理設備工事や地すべり対策工事などを行い、平成28年度の完成を目指しております。今年度末の進捗率は85%の予定です。

次に河川改修についてですが、昭和52年度から流下能力の確保のため、延長12.2キロメートルの河川断面を大きくするとともに、護岸工、橋梁架けかえ等を実施してまいりました。平成27年度は上流部の宇木大橋の橋梁工事、護岸工などを行うとともに、下流部の河床掘削工事を実施する予定です。今年度末の進捗率は99%となる見込みです。

最後に下流部における内水対策についてですが、被害が既往最大となった昭和58年9月台風10号と同規模の洪水に対し、宅地部での床上浸水被害を防止することを目標に、平成25年5月に策定した浅川総合内水対策計画に基づき実施する施策のうち、ハード対策として、短期整備に位置づけられた排水機場の増設として、浅川左岸に毎秒14立方メートルの排水機場を整備するものであり、その事業が平成26年度から事業着手となりました。

平成26年度は用地の確保や物件補償、農業用排水路の付けかえ工事を実施しております。平成27年度は土木工事、建屋建築工事のほか、ポンプなどの機械設備、電気通信工事に着手する予定です。今年度末の進捗率は50%の見込みです。

以上で、浅川治水対策の現況につきましてご報告を申し上げます。

## ○浅川改良事務所

すみません、この4月から浅川のダムのほうを担当しています、事務局の橋詰利明と申します。せっかくの機会ですので、今のダムの現況等を少し説明をさせていただきたいと思います。座らせていただきます。

最初に、ご存じかとは思いますが、ざっとダムの経過ということで説明をさせていただきます。

浅川ダムにつきましては、平成22年3月12日にダム本体工事の契約を行いました。契約のほうは、大林・守谷・川中島建設共同企業体でございます。それで平成23年9月13日からダム本体の堤体コンクリート打設を開始しております。

平成24年9月19日には浅川ダム定礎式という式典をやっております。

平成26年3月14日には、浅川ダム本体の工事の変更契約をやっておりまして、このときには物価変動、岩盤清掃の方法、基礎処理についてCSG対策という、後ろでやっている一部地すべり対策をやっていますが、その材料等について変更をしております。先ほどの話がありました、その結果、平成26年7月2日には、ダムの堤体コンクリートにつきまして打設を完了しております。

これが今、浅川ダムの全体の平面図です。少し小さくて見づらくて申しわけございません。

こちらにあるのが浅川ダム本体でございます。先ほどのとおり、浅川ダム本体につきましては、平成26年7月にコンクリート打設のほうは終わっております。今現在、何をやっているかということと、あと今年度、今後何をやるかということで、そのあたりの説明をさせていただきたいと思います。

今、まずやっていることは、浅川ダムの基礎処理というものをやっております。これはダムの下にコンクリートミルクというものを流し込みまして、水がたまったときに水漏れを防ぐ工事をやっております。

それと並行しまして、現在、ダムの管理棟を建設しております。この管理棟の中には、ダムの中にいろいろな配線とか、そういう設備関係の工事を含めて、今、急ピッチで進めているところです。

ダム本体が完成しましたので、その周辺の貯水池等の法面工を現在やっております。これはダム本体貯水池の中で法面对策が必要な場所について、今後、順次対策をしていくというふうに考えております。

上流のほうでCSG押さえ盛土というふうには書いてあるのですが、こちらについては上流の地すべりのブロックがこちらに、上のほうにございますので、そちらの地すべり対策としましてCSG盛土工ということ、これは昨年からの工事はやっておりますが、継続してまた今年度もやっていく予定でおります。

それとこちらにも継続事業にはなりますが、現在、こちらの地すべりブロックの頭部排土工ということで、地すべりの頭部を軽くして地すべりを抑制するという工事なのですが、そちらを引き続きやっております。

今後の工事になるのですが、今の地すべりの中で、またちょっと計画しているところなのですが、地下水排除工を行いまして最終的に地すべり対策を完了させていきたいと考えております。

その周辺の工事としまして、今現在やっているのは、ダムの本体のすぐ下に、長野市道になるのですけれども、ダム本体の工事によって付替えが必要になります永原橋の架け替え工事を現在やっております。

あと周辺の道路整備工ということで、またダム完成に向けましていろいろ周辺道路がまだ未完成な場所がありますので、そのあたりを順次、工事をやっていきたいと考えております。

それと、せっかくなので、3月に起きました浅川ダム右岸法面崩落について、説明をさせていただきたいと思っております。

崩落の写真になるのですが、こちらは実はまだ崩落していない3月18日の前日の写真になります。ちょうど崩落に当たるのは、今、赤くつけた場所なのですが、見ていただくとわかるのですが、まだ表面には雪が積もった状態であります。

これが翌19日に見つかったのですが、上のほうから一部が崩落して、下のほうへ土砂が流れたということが起きております。上の少しアップになった、これが崩落した場所の写真になります。

崩落の原因ですけれども、これはイメージ図になるのですが、ここは元の岩盤が非常に水を通しにくい堅い岩盤が下にございます。その上に40センチ程度の表土が載っているところになりまして、その薄い表土のところの木が立っているということで、下の岩盤が堅いため、木とか根っこも下に入っていくことができないような状態のところのございます。

そういうところで、先ほどの最初の写真のように、この崩れた上には雪がまだ残っていました。今回、この崩れた前の週まではずっと氷点下から2℃、3℃ぐらいの気温でずっと来ていたのですが、この3、4日ぐらい前から急激に温度が上昇しまして、10℃以上の平均気温になった日が続いております。さらにこの当日なのですが、降雨と書いてあるのですが、1日に13ミリ程度の雨が降りました。それによって、何が起こったかといいますと、降雨によって水が、雨が落ちてきて、それによって気温が上がったこともありまして、先ほどの雪が解けまして、雪解け水が出てしまったと。ちょっとそれがこの上に40センチほど載っている表土の中にその水が入りまして、それでこの上の部分がすべりやすい状態になってしまったということになっております。

この原因としましては、春先に見られる急な気温上昇に伴う雪解けと降雨によるものであります。谷状の地形に集まった水が堅い岩盤上の表土をゆるめたことから、表土の土砂が流出したものというふうに考えられます。

崩落は、ここの絵のとおり、約40センチ程度の浅いものであるということと、崩落地にあらわれた下の岩盤は極めて強固なことが現場で確認をされています。これによりまして、周辺の法面や法枠工に今回の崩落は影響がないことがわかっております。

こちらの法面につきましては現在、専門家の現地調査が行われておりまして、今現在、対策工法を検討しているところのございます。できるだけ早いうちに対策工法については決めまして、できるだけ早い時期に工事にも着手をしたい

というふうに考えております。

ダム本体は完成しておりますので、ダム本体の工程には特に影響はないというふうに考えております。簡単ですが、以上になります。

○市村議長

それでは、説明は以上ですね。それでは先ほど申し上げましたように、質疑は10分間休憩をとった後、質疑、意見はいただきたいというふうに思いますので、ここで10分間の休憩をとらせていただきます。以上です。

今の時計で43分ですので、これから10分ということで53分まで休憩ということでお願いいたします。

(休憩後)

#### 4. 質疑・意見交換

○市村議長

それでは、時間になりましたので、ご質問なりご意見を伺うということで、これからお願いをいたします。

ご意見ある方は挙手をさせていただいてお願いをいたします。はい、どうぞ。

○西沢会員

私、14番の西沢といいます。わからないのでちょっと教えてください。

前の知事さんのときから、今のポンプ部、容量がえらい小さくなってしまったような気がするのだけれども、その辺はどういうことなのか、ちょっと教えてください。何かポンプの容量・・・何かえらい昔のときと、排水機場の容量、それに続いてポンプの容量が小さくなっているから、あの絵を見せてもらって、今日、初めて見せていただいたのだけれども、あれだとまた水が出たら、ほとんど水がかかってしまうなど、ごみじゃないですよ、水害のときはごみじゃなくて、大きいものは、多分、除塵機と言われたけれども、それとごみも引っかかるし、それからため桝もつくるといふ、ごみつかかっちゃって、いざ吸い上げようと思ったら空気が入ってしまっって、水、いわゆる周りから来ないですよ。上で水害になっているけれども、この排水機場のところでは水が吸い上がらない、そちらにいる方、土木の専門の方、吸い上がらないですよ。だから、そういうこともちょっと、もう一回、技術的なことをもう一回説明をお願いします。まことに申しわけないけれども、よくわからないから。

○市村議長

排水機場の容量が前より少なくなっているということですが、14トンというのは、それは前というのは、先ほどの県の説明によりますと・・・

(「14トンというふうに聞いたのだけれども」と西沢氏から発言あり)

・・・ええ、14トンなのですが。それが・・・

(「初めから14トンだったかな、もっとずっと大きかったはずですよ」と西沢氏から発言あり)

(「合計で44トンです。既設のものにあわせて」という発言あり)

#### ○浅川改良事務所

お答えします、すみません、よろしいでしょうか。

まず、第一排水機場、第二排水機場というのが長野市さんのほうでありまして、第一排水機場が14トンあります。第二排水機場が10トンのポンプが3機ありまして30トン、あわせて44トンになります。

今回、計画しておりますのは、短期整備としてこちらの14トン、こちらのほうの説明をいたしました。それから中長期としてさらに7トン、ですので、総合内水対策計画で計画しておりますポンプの容量は2つといいますか、14トンと7トンとあわせて21トンになります。21トンと既設の44トンありますので、足して65トン、こちらが全体の計画という形になります。

西沢さん、先ほどもっと大きかったとおっしゃったポンプの関係なのですけれども、平成23年に知事が説明をされたそのときから、一応、65トンというような形の説明になっていたと思います。それ以前の計画につきましては70トンとか、もっと大きなようなものがあつたかと思うのですけれども、内水解析を行い、千曲川の改修の進捗とか、そういったところを見る中で、全体として65トン、併せて、幾つかの改修を行う中で浸水被害を防止しようという形の計画ができたのが平成25年になります。

ですので、今回の14トンというのは全体の中で段階的に施設整備を行う14トンという形になります。

#### ○西沢委員

ちょっといいですか、それって、あなた、聞いていると自己矛盾に陥らないですか、千曲は水害が起きるときは350トン流れると言っているのでしょうか。350トン流れると言ったのに、とたんに排水機場になったらだんだん小さくなってしまって、そうすると合計何トンですか、今、言ったのは。

#### ○浅川改良事務所

今回の説明は内水の説明になりまして、350トンというのは外水の関係になります。外水は浅川自体の水を上流から下流に流すという形のものになります。

内水というのは千曲の下流側、今の立ヶ花狭窄部のところから水がせき上がってきて浅川を上流側に向かって水が流れ下り入ってくると、そういったのが原因になります。今回は内水・・・

○西沢会員

わかりました。ともかく、今、結論から言うと、何かだんだん、一番肝心の水害対策の必要な内水水害対策と、あなたたち、俺は昔知らなかったのだけれども、内水水害、おかげで勉強になって覚えたのだけれども、内水水害対策ということで浅川ダムをつくるとか何とかとさんざん、当時、そんなような話だったのですよ。素人だから僕らはわからないけれども。

でも、今、考えてみると、その外水対策のためであって、我々の水害対策ではなかったのか、でもそれではいけないということで、いろいろな人たちも、ダム賛成も反対の人も含めて、では内水だけはしっかりやろうじゃないかという話だったはずなのです。ここにいる方、反対の人はいるかな。大体そういうことですよ。みんな意見は違ったとしてもいろいろな、結論はそこです、一致していたのです。

だから内水の水害対策だけはきっちりやってくれるだろうなと思っていたからみんなこうやって話をしてきたんです。だから、今、聞くと、何かだんだん、ダムは何百億円もの金を使っているけれども、こちらのほうは何かだんだん小さくなってしまったなと思って、俺、一瞬、今、オッと思ったのです。だからこういうことを聞いたの。

○市村議長

西沢さん、要はポンプについては、古い話ですけれども、もっと増える、増やすというような話もあったかもわからないけれども、県としては平成25年に、要は最終的に65トンにすると、既存のやつを含めてということで、今回はそのうちの14トン、ただ、あと7トン追加するというのは、これ計画としていつごろになるのかというのはちょっと私のほうから県にお聞きしたいですね。

○浅川改良事務所

すみません、内水対策計画は30年という形で計画しております。地元の中で、こちらのほうにもあるのですけれども、ほかの政策が幾つかありますので、そういうところを勘案しながら行うという形になります。

○西沢会員

ちょっと、それは聞けない。なぜかといったら、これは、ダムをつくるときの、今、ダムをつくること自体、俺は賛成じゃないけれども、そのときはそういう議論がさんざんあって、ではダムができるとき、完成のときには排水機と、いわゆる内水水害のものもつくって両方で何とかしようかなという、そういう話の経緯じゃなかったですか。

○浅川改良事務所

そういうことです。

○西沢会員

そういうことでしょ。これ別に、今、急に俺が持ち出しているわけじゃないですよ。今、それはもうそこにおいで先輩方もおいでになるからわかるけれども、そういう経緯で当時、みんな議論してきた結果ですよ。何か、そうするとまた元に戻ってしまっているじゃないですか。

○市村議長

ただ、要は内水対策としてはポンプアップの問題と、あと二線堤とか、堤防のかさ上げとか、そういう問題が、いわゆる流域協議会の中では遊水地とか何とかといういろいろな、これがいいという話があったけれども、遊水地というのはお金の問題もあり、用地の問題もあるから、これは県はちょっと難しいということで、今、言ったように、ポンプアップ、二線堤、それからかさ上げと、こういうふうに、いわゆる政策の変更があったというのは、これ流域協議会の中でも、前回か前々回で話が出ているわけです。

ですから、西沢さんの言われていることもあれなんだけれども、要は経過の中で、県の説明があった、いわゆる短期と中長期ということで、施策が最終的には30年というような、我々が聞いても長過ぎるんだけれども、そういうことで来ているというのが実態だと思うんですよ。

○西沢会員

すみません、申しわけない、ハードの部分については、今、言った二線堤だとか遊水地の問題は、それは中長期の話かもしれない。でもハードの問題については、それはそんな、今言ったように何百億円もお金を使うところから考えれば、排水機場の、しかも今、ちょっとここ見ると、ため柵もないですね、これ。これちょっと具体的なことで、ため柵はどうですか。

○浅川改良事務所

すみません、ため柵というのは、吐出水槽の話だと思います。

○西沢会員

俺、素人だから、そういう専門家じゃないからわからないけれども。

○浅川改良事務所

すみません、ため柵というのはこちらの手前に、第一、第二排水機場の手前にある、こちらの池のことをおっしゃっていますか。

○西沢会員

そう。それは何でそういうことをさっき言ったかということ、いざというときには空気を吸って、上では水がいっぱいあるのだけれども、排水機場の能力が

發揮できないのです。俺、素人です、俺、素人だよ、だけど具体的に見て知っているからそう言っているだけです。

能力の、例えば30トンの排水機場のポンプだって、空気を吸ってしまうのですよ。出てくるのは、そこで一生懸命、フルに出ないのです。だから、それには周りからいっぱい水が寄ってこなければ、排水機場のポンプは目いっぱい出ないじゃないですか。そのためのことはどうなっているのですか。

#### ○浅川改良事務所

お答えします。今、これ1-1断面のほうを見ていただきたいのですけれども、河床のところと比べて、水と呼び込むポンプの真下のところの地盤高が下がっています。

こちら通常は河床と同じくらいの高さなのですけれども、水を低いところから上げるということが可能なような構造になっております。この結果、水は既設の第一、第二排水機場の吸い上げ水位よりも低いところから吸い上げることができるような構造になっています。

#### ○西沢会員

ではそれでいいのだけれども、ごみは、ごみといってもこんなごみじゃないです。水害のときはこんなものがみんな、丸太か何かみんな来るのだから。

#### ○浅川改良事務所

そちらのほうも、こちら第一、第二排水機場の操作をされている操作員さんのほうにも伺いながら、どんなようなものが必要かということについて設計をする前に相談をしております。第一排水機場、第二排水機場では、大きなごみを取り除くのに除塵機の手前のところに橋があるのですけれども、橋のところからバックホウを持って除塵できるような構造になっているというお話を伺いまして、今回もそのような構造にしています。

具体的には、これ水が入ってきて除塵機があります。その手前のところに若干、橋みたいなものがあります。これと同じものが第二排水機場の手前にあるこちらの橋なのですけれども、これをお話し伺う中で設計の変更を行いましてつくっております。

水の流れとか、そういったところの中で、大きなごみについてはそういった重機を使って撤去できるような形のことを考えておりますので、水も低いところから吸水できますし、ごみについても撤去できるような形になっているというふうに思っています。

#### ○西沢会員

ちょっといいですか。実を言うと最初のときの、いわゆる先ほどのポンプの容量なんですけれども、25年に決めたということなんですけれども、流域協議会は誰も知らないんですね、水量自体を。

○浅川改良事務所

すみません、水量といいますと。

○西沢会員

25年の第20回をやったのが・・・

○浅川改良事務所

5月14日です。

○西沢会員

そうすると、その後で決めてある事実は、このときはそういう話は出なかったでしょ。

○浅川改良事務所

いえ、そういう話をしています。14トンを最初にやる。それから7トンについてもあわせた形の中でやりますという形の計画をその後、総合内水対策協議会というところで審議を行って最終的に決まっておりますけれども、全体的な説明は同じことをやっております。

○西沢会員

だから、7トンはいつやるのですか、何で工事を一緒にやらないんですか。そんな水が出るか出ないかなんてわからないもの。

○浅川改良事務所

23年に知事が説明をしたときに、内水対策の整備は一気にできないと。65トン必要なのだけれども、最低限7トンの整備を行うということを約束しております。

○西沢会員

順次やるのはわかるんですけども。

○浅川改良事務所

段階的にしか整備ができないので、21トンの中の今回は14トンということになります。

○西沢会員

それで、14トンはいいとしても、揚水量はどのくらい上がるのですか。

○浅川改良事務所

揚水は、6.6メートルです。

○西沢会員

今のと比べてどうなのですか、ちょっと資料を持っていないからわからないんですけども。

○浅川改良事務所

今のが第二排水機場が5.8メートルですので、高さ的にといいますか、能力的には高いものになります。

○市村議長

よろしいですか。

○佐藤会員

すみません、17番の佐藤です。

今度の増設される第三排水機場は、今のお話しですと、導水路部分の底が今の排水機場よりも低くなるということで、もっと効率的に水を引き上げられるという説明がありましたが、ほぼ何メートルぐらい底が低くなるのかということをお聞きしたいのと、それから実際に水が出たときには、これはどちらかという、では第三排水機場のほうをまず動かすというような状況になるのか。

第一、第二の中で、第一はもうかなり古くなってきているのです、機場としての老朽化が進んでいるというふうに見られるのですが、第三機場をまず稼働させて、第一、第二というふうを考えていくのか、そのいわゆる被害を起こさないためのポンプの稼働などについてはどのように考えておられるのか。

それと、これは当然の話なのですが、私もあと7トン、では、いつつくるのかということは、市民からは聞いてほしいというふうに言われていまして、全体計画が30年目標だということであれば、この先、まだ遠いということは感じるのですけれども。

ただ、このポンプをいくら増強しても、千曲川の洪水位が高くなれば、実際には本川を守るためにポンプを稼働しない、停止をしなければならないという判断も起きるわけですね。そうすると、もちろんポンプの増強というのは切実な課題ではあるのですが、やはり千曲川の本川のここを、河道の能力を高めておくということが、やっぱり浅川の内水対策としても非常に大きいと思うのですけれども、この点についてはどのようにお考えなのでしょうか。

○浅川改良事務所

3つ質問があったと思いますので、1つずつ答えていきたいと思います。

1点目が、導水路からポンプのピットの下の高さの差がどれぐらいあるかという点、それから将来計画の・・・稼働の順番ですね。稼働の順番と、将来7トンにする、つくるかというご質問があったと思います。

まず、導水路とポンプピットの間の差なんですけれども、ちょっと今、若干大きくしますが。数字として導水路のところが325.4で、ポンプの吸い上げ口のところが323.0ですので、2.4メートル下るといいますか、差が出てきているという形になります。

順番ですけれども、今回の第三排水機場は既設の排水機場の起動水位よりも60センチ低いところから起動するような形になります。機能とすると60センチ低いところから水を排水できることになるのですけれども、操作要領、操作細則、そういったことについて、現在、国のほうと交渉しているところでして、連携して第一、第二排水機場とも関連してきますので、そういったお話を長野市のほうとも含めてやっているところです。

それと最後の7トンの関係なんですけれども、現在、14トンについて、先ほどの説明でもあったのですけれども、国のほうに新規事業として認可いただいて、非常に短い間なんですけれども、用地の買収を行って、28年、ダムと同時期に向けて事業を進めているという状況でして、まずはこれを全力でやりたい。その後はまだ十分に地元で了解いただけていない課題も幾つかありますので、そういったところを含めて了解いただきながら進めると、そういう中での7トンという形になります。

#### ○浅川改良事務所

今、合計で21トンのポンプをつけると昭和58年のときの出水の水の量で住宅に支障にならないようにということで、今回、容量を決めているということで、21トンを一気に完成させればいいことは当然なんですけれども、国のほうからいただくお金、また当然、県の予算も必要になってくると、非常に大きな予算が必要で、当初はそれを3分割して7トンずつ、順番に時間をかけてやらせてもらえないかということでご提案をした時期もあったかもしれませんが、ちょっと7トンでは不安だということで、我々のほうでも解析する中で14トンを行先行して行くと、豊野町のある一部のところは結構守れるようになるということで、14トンをまず先行して、その予算は何とか確保しようということで現在進めております。引き続き7トンも継続して事業をやりたいのですけれども、何年も先のことは正直わからない、予算がどれだけいただけるかというのは正直わからない状況です。

国の千曲川の河川整備計画というのもつくってありますけれども、やはり国のほうも先のことは、非常に大きな事業なものですから、仮に10年で終わるような場合であってもはっきりわからないので、計画とすると30年というようなスパンで何とかしますという、中長期の期間を決めております。

もっと下流の長野県の飯山市から北信、栄村のほうですか、のほうについても河川整備計画というのは30年という単位で、これだけの区間の堤防をつくっていきますというような中長期的な計画をお示ししております。

実際もっと早く終わるところも当然ございます。予算がついた順番にやりますので、早く終わるところもあるのですけれども。そういう表現でしないと、

あと5年でつくりますというのはとても、我々の中で誰もそういうお約束ができないものですから、表現にすると30年の間に順次やっていきたいと。

我々としても引き続き事業が継続できるように、国のほうにも要望はしていきたいと考えております。

○市村議長

よろしいですか、何かその関連で。

○佐藤委員

わかりました。そのことについては説明いただきましたのであれですが。

もう一つだけなのですが、今度の機場は、これは県が管理するということになるのでしょうか。

実は第一、第二のころ、古いころは土地改良区だったのです。それが長野市に移管されたのですが、もし第三が県ということになると、第一、第二も含めて県の管理ということになるのかどうか。

実はその防塵の機械で、ごみを上げてそれを運ぶ、そういうトラックと申しますか、そうしたのも実は体制的にとれていないのです。そのことは私、前にも質問させていただいたことがあるのですが。

そうしたことも含めると、一体的な管理・運営ということをしていただきたいし、そうした体制をとるためにもぜひ県としての管理をお願いしたいかと思うのですが、いかがでしょうか。

○浅川改良事務所

一体管理ですとか、連携した操作ということについても、長野市さん、長野市の建設部局と農業土木部局、それと我々県の関係とお話しをしております、大切な課題だというふうには認識しております。

最初の、新しくつくられる第三排水機場につきましては長野県がつくって、県が管理するという形になります。これは確定しております。

第一、第二排水機場につきましては、ちょっと先ほどお話ししたような内容で、今、長野市さんと協議しているところです。これ連携した操作ということも含めてお話しをしております。

○市川議長

よろしいですか。では、はい。

○中沢会員

8番の中沢勇と申します。よろしく申し上げます。

今、佐藤さんも、佐藤さんのほうから問題は千曲川のほうだと、大変ご心配されている、前々から上がっているのですが、発言がありました。私も全くそのとおりだと思います。今回の対策、内水対策ということで、昭和58年の水害、

これが基準の数値になっているようではすけれども、大変甘い、今言っているのは話にならない。

ちょっと話が飛びますが、昨年、広島で大変広範囲の土砂災害がありました。これは後になってみれば、あそこは崩落しやすい真砂土のところで、今、大きな工事をやっていますけれども、後になってみれば予想できたことなのです。

千曲川が今、大変危険だということが予想されています。この根拠を二つ申し上げます。一つは、千曲川には過去に氾濫の歴史、これは新幹線の車両基地の近くにある妙笑寺の洪水水位標、これはカラセさんという篤農家がつくったものが現在、もっとしっかり建て直されていますけれども、ここに出ています。戊の満水という特別なものを除いても、明治時代には、元年、27年、43年、44年、4回大出水がありました。大正以降、昭和、平成の今日までそのような水害、出水はありません。それがまず1点は、千曲川がそういう災害の氾濫の歴史があるということです。

もう一つは、国が千曲川は非常に危ないということをはっきりもう表明しています。具体的に申し上げます。例えば、なぜあの村山の鉄橋はあんなに高くつくったのでしょうか。なぜ飯山の中央橋があんな高くつくっているのでしょうか。これは、千曲川の立ヶ花基準点でいえば、基本高水流量は11,500トン/秒です。では立ヶ花からどれだけ流れ出るかというのは、千曲川河川事務所の所長がある業界紙に載せているのでは、6,500トン/秒を目標に取り組みと。つまり11,500トンが流れてくるという予測を国は持っているのです。それに基づいて柱を高くしているのです。

ところが、河川整備基本方針ができて整備計画もできたようですが、基本方針の中身は基本高水は11,500トン、それを9,000トンにする。計画高水流量9,000トンにする。上流で2,500トンをカットするような、下流は9,000トン流れるようにすると言っているのです。ですから、しかし整備計画では上流のことは触れていません。これはどう考えてもできるわけがないですよ、上流にもダムをつくる、不可能です。ということは、千曲川は非常に危険なのです。今日は危機管理の方は来ていますか。では河川課長の金井さん、ぜひこの問題を大きく捉えてください。

千曲川の状況は悪化しています。それは上流と下流に堤防ができたことです。昔は上流でたくさん氾濫していました。それは堤防が整備されて、しかも勾配が急ですから、ほとんど上流に降った雨は千曲川に閉じ込められます。当然、地元の人もご存じのように、昔より洪水のとき出水が早くなったと、高くなったと言っています。下流にも堤防ができました。下流の氾濫はもう防げると思っています。つまり、下流のほうで今まで氾濫して下がった水位が下がらないんです。だから千曲川ははさみ討ちで悪くなっています。

もう一つ、西大滝ダムが非常に悪い影響を及ぼしています。これはとんでもないことを言っているのです。今、申し上げましたように、計画高水流量は9,000トンです。ところが西大滝ダムは9,000トン流れないのです。ところが模型実験をしたら流れたということを長野県に報告しています。これは県議会の記録に

も残っています。だけれども、西大滝ダムは昭和14年にできたのですけれども、この当時の、当時の計画高水流量にあわせた設計洪水流量なのです。6,000トンに行きません、5,565トンです。これによって国に水利権の期間の伸長を申請しているのです。ところが長野県の住民、県議会に対しては9,000トン流れるとうそを言っているのです。ぜひこのことを重く受けとめて、県として、あそこは県管理区間ですから東京電力は謝るべきだと、これは覚えてください。きちんと管理してください。とにかくあのダムができてからろくなことはない。これはシラトさんという人が言っています。

ですから、これ以上は、あまり長くなるといけませんからあれですけれども、問題は、排水ポンプの強化もいいですよ。けれど、それはさっきも話が出ましたように、千曲川の水位が高くなれば運転できなくなり、それどころか国が示した社会資本整備審議会の分科会、私も傍聴しました。東京へ3回行きました。その資料によると、今の堤防も高さが足りない。千曲川の堤防、飯山も長野も、けれどこれ以上上げないと言っているのです。ということは、国はもう、例えばあの排水ポンプ、国はつくらないじゃないですか。だから、とにかく非常に危険ですから、そういう立場で危機管理をしてください。今度の新しい予算でも災害対策に力を入れるとおっしゃっていますけれども、中身、千曲川のことをどれだけ含まれているか。

去年災害がありましたから去年が問題ですけれども、それ以上、もっとさかのぼって考えれば、非常に大きな問題を抱えています。以上です。

#### ○市村議長

まあ浅川、千曲川というのは非常に関連性の強い問題なのですが、これは県のほうからまた、事あるごとに国のほうに要望を出していただくということで。

今日は浅川問題ということなので、千曲川の問題は関連が非常にあるのですが、一応、また別の機会があればということで。

#### ○中沢会員

議長、すみません、議長、悪いですけれども、浅川の水系の問題ですからね。別のことを言ったわけではありません。

#### ○土屋会員

25番の土屋といいます、今日、ご説明の中で、浅川ダムは外水対策としてつくるという、サラッとそういう説明をなさったのですけれども。浅川ダムを当初つくる時は、赤沼に水害がなくなるのだと、そういう内水対策だという形で始まったのですが、いつからそういうふうに変ってしまったのか。そもそも、何か今日の説明を聞いていて納得できないなというのがあります。

それから、長沼のほうでもご説明いただくようですけれども、特に長沼の方が聞けば、みんなそういうふうに変和感を持つと思うのです。結局、あれは何だったのだということになると思うのですよね。

それから、ここに浅川総合内水対策計画案と、ちょっと古いやつですけれどもあるのですけれども、これの昭和58年9月の洪水について、14トンのポンプで32時間稼働して、159万立方メートルを排水したというふうになっているのですけれども。実際には、さっき揚程のお話がありましたけれども、水位が上がっていくとポンプの能力というのは落ちるわけでしょ。だけど、これはあれでしょ、14掛ける、要するに32時間の60、60でやっこの数字が出るという形で、実際の水量ではないでしょ、これ、そういうことですよ。水位が上がってれば、水、出るのは減るのでしょ。

それから、そもそもこの間、この間というのは25年5月21日の説明では、一号の14トンのやつは揚程は2.1メートルしかないというふうにご回答いただいています。それからそのときには、二号の30トンは4.4メートルというご回答でした。それが今日は5.8メートルになりました。それから、今回つくる14トン、そのときの揚程は4.7メートルという説明でしたけれども、今日は6.6メートルという説明になりました。

ちょっとまずそこら辺の違いがどうして出てくるのか、ちょっとそこを教えていただいて、それから後は、またその後の質問のほうに移らせていただきたいと思いますが。

#### ○浅川改良事務所

お答えします。先ほど第二機場の揚程が5.8メートルというふうに言ったのですけれども、今、ちょっと内容をもう一回見てみまして、5.2メートル、すみません、訂正させていただきたいと思います。

ポンプの揚程の決定には幾つかの行程に分かれまして、最終的にはポンプの特性ということで、計画全揚程というのがあります。ですので、ポンプの性能は、計画吐出量と計画全揚程で決まります。

まず第一排水機場ですけれども、計画吐出量が14トンで、計画全揚程は3.2メートルになります。第二機場につきましては、計画吐出量が30トンで、計画全揚程が5.2メートル。新設する排水機場ですけれども同じ考え方で、これ予備設計の考え方なんですけれども、第一、第二排水機場と同じ形で計算をしますと、計画吐出量が14トンで、計画全揚程が5.9メートルになります。

私、先ほど計画全揚程が6.6メートルというふうにお話しをしたのは、こちら損失水頭という考え方がありまして、実際に詳細設計を行う中で複雑な計算を行います。配管の仕方ですとか長さですとか、そういったところの中で、損失水頭を考慮して最終的な計画全揚程を決めるのですけれども、今回、詳細設計を行っておりますので、その後の第三排水機場の正確な計画全揚程は6.6メートルになります。説明が若干、言葉足らずで申しわけありませんでした。それと、間違っって説明をしてしまったところがありますので、訂正させていただきます。

高さが足りないという話につきましては、内外水位が変動します。内外水位が変動する中で、実際にどのような形の水位、水の出方があるのかということをお細かく検証する必要があります、実際には、58年の状況についてはよく

わかりませんでしたので、最近の水位の関係を検証しました。平成16年と18年と25年に排水機場が稼働しましたが、第一、第二機場とも動いておりました。水が全く出ないというような状況ではありません、十分機能しています。第一機場については老朽化もしておりますけれども、機能するかしないかということでは、機能するという話の中で現在の計画を立てております。

○市村議長

よろしいですか。まだ、ちょっと続きがあると。

○浅川改良事務所

もう一つ質問、浅川ダムが外水被害で最初つくったときは、それで内水対策になるという説明があったということで、ちょっとその昔の説明がどうだったというのはちょっと記録をよく見ないといけないのですけれども、説明の仕方が悪かったのかもしれないけれども。浅川ダム本体ができれば当然、下流に一気に大きな水が流れてはこない。それで水害が防げるという説明は多分したと思うのですけれども、それで内水がどうのこうのということはちょっと説明の仕方が悪かったのかもしれない。

○土屋会員

それは全然違う。

○市村議長

それは私も記憶があるのですが、県のほうの説明に、外水、内水という考え方が、前は、当初なかったのです。途中から出てきたのです、そういう言い方が。

○浅川改良事務所

なかったということは、通常、大きな水が流れてきて水害が起きるのを防ぐためのダムですという、そういうことで説明をしたのではないのでしょうか、一番最初のところで。

○市村議長

ちょっとその辺も、私もよく見ないとわからないけれども、確かに外水、内水という話は途中からファッと出てきた話ですよ。よろしいですか。

○土屋会員

議長、すみません。私、その外水・内水の話はまあいいのです。私が言ったとおりなのです、それは県はダムをつくりたかった。だから地元を説得するためにそういう言い方したのです。それが真実です。

それで、さっき揚程とか何とか、あまり難しくてよくわからないのだけれども、浅川の、今度つくるやつですね、60センチ低いのですよね、そういうことですよね。そうすると60センチ低いところから最高で5.9メートル、6.6メートル、そこまで水が上げられると、そういうことですよね。押し上げると、そういうことです。だから、今までのより60センチ低いところに設置するのですよ。

○浅川改良事務所

低いところから水を吸い上げることができるという。

○土屋会員

だから揚程を計算するときには、そこから計算するわけでしょう、そういうことでしょう、そういう意味でしょう。だからわかりやすく説明してください。

そうすると揚程というか、1メートルの落差のときにポンプをガーッと活動させるのと、6メートルの水位のあるところで、ポンプをガーッと活動させたときに、同じ水の量がでるのですかというふうに聞いているんです。

○浅川改良事務所

それは当然違います。

○土屋会員

そうでしょう。そうすると、これ当時の県でつくった資料ですけれども、14トンで32時間働かせて159万立方メートル出たと。だから、どうしてこういうのを書くか。だってこのときは、昭和58年のときはポンプ、とまっているのですよ。それで動いていた時間が32時間だとしても、フル能力で動いているという計算しているでしょう、だから、そもそも県の今の外水対策、内水対策の話もそうだけれども、うそが多いのです、それを地元としては心配しているわけです。

それで、だからどうやってやったって、皆さん、理論上はこれだけやればこれだけの範囲の水害が軽くなるというふうにおっしゃるけれども、実際にはそんなもの信じていないですよ、だって数字がうそなのだから。だからどうやって、ポンプがとまった後の水がどこへ行くのかということ进行处理しなければ、この問題は解決しないのですよ。ポンプをいくら立派なものをつくってみても、ポンプはとまるのです。

それで今、所長さんおっしゃったけれども、ダムをつくれれば1時間半遅れて水が出てくるのです。余計たまるのです。だからダムがないほうがいいのです、内水対策とすれば。そこを誤解のないように、ひとつお願いします。とりあえずいいです。

○市村議長

よろしいですか。では時間があるので、あと二人だけちょっとご質問を受けさせていただきます。では先に、関さん、お願いします。

#### ○関会員

この浅川改修事業、私もしょっちゅう長野に来るたびに古里の小学校からずっと吉田へ出たりして、しょっちゅう見ているわけでございますけれども、本当によくやってくれました。あれで古里の人たちはこれでもう済んだと、こういうもう考え方で、私の弟などは、「兄貴、こんなにうまくなったのになぜまだ騒いでいるのだ」と、こんなことさえ言うくらい、言ってくれるくらいよくなりました。それでまた、浚渫も時々見ておりますが、結構、順調にやっていたいているなど、こんな思いで、この河川改修、これだけはなからなから住民の満足もこの範囲でできたのじゃないかと、こんなふうにいるわけでございますけれども。

一番下流におります豊野町と長沼といたしますと、58年のときのあのときを想像して、ポンプアップできなくなったらどうなるのだと。これはダム賛成、反対の如何にかかわらず、全部思っているのです。だから、このダムなんて、ポンプアップできなくなったときはどうするのだと、皆さん方、全然考えもなく、これはもう論外、この中で全部これをやっていらっしゃるような気がするのです。だから遊水地の問題も、これ一応は考えていただかなかつたら下流の皆さん方は非常に不安なのです。

それと1点、今度はお聞きしたいのは、ちょっと浅川第三排水機場、排水イメージというのをちょっとそこへ出してくれませんか。

浅川と書いてある、あのあたり、あのあたりからちょっと上流あたり、昔は安全弁ということで、やや30センチからやや低くなっているのです。今もそのままで低くされているのでしょうか。あれの水は全部長沼まで来てしまうのです。

それで、俺の友だちのタケウチさんという人は、ちょうどそこからちょっと南のところへ土地を求めて買まして、作業機の荷台を水につけてしまって、ばか見ちゃったとってかまけたのを、私、覚えがあるのです。

それで、あそこのところ低くなっていて、これは安全性のためだと、昔の人もそう言っていたと、そのままそれが今も残っているのでしょうか。その点、それからポンプアップの遮断といいますか、できなくなった時点のお考えと、そのところをちょっとお聞かせいただきたいと思うのですが。

#### ○市村議長

よろしいですか。

#### ○浅川改良事務所

まずポンプアップができるかの説明をする前に、こちらは千曲川の排水能力の関係に非常にかかわってくる問題です。国土交通省の関係になるので、どこ

までお話しすべきかというのがあるのですけれども、信濃川水系の河川整備計画の関係では、昭和58年を目標にして計画を立てていると。当面、平成18年に災害がありましたので、平成18年に対応出来る工事を平成27年までに行うというふうに聞いております。

今回の内水対策につきましては、国と同じ昭和58年を目指して行っているということで、そういった形での計画になっておりますので、排水自体はとまらない。千曲の水位がハイウォーターまで行くと排水規制が起こるのですけれども、そこまでは水が来ないという形の中での計画になっております。

すみません、それよりも水が来るということは超過洪水という形になりますので、超過洪水につきましてはハードのみではできないということで、今回の計画では浸水想定区域図の作成ですとか、住民へのそういったソフト関係での周知を計画に入れております。

ですので、ハードでの対応については、現在はそういう状況での対応になります。

#### ○市村議長

すると、今、質問の中にあつたその60センチですか、低くなっているかということですね、現状も。いや、何か低くなっているかどうかという話。

（「あそこだけ堤防がないのです。そこが遊水地みたいになっちゃう、おそらく」という発言あり）

（「遊水地になっているのですよ、毎回」という発言あり）

#### ○市村議長

それは・・・ではもう1名といたしましたけれども、簡単にあとお二人。ではお二人で質問は一応、させていただきます。

#### ○竹内会員

最初に、再三のことで申しわけないのですけれども、導水路の断面というのはどのくらいになっているか、それと設計の、今、こういうのが出ているのですけれども。

すみません、6番の竹内ですけれども。今、今回この図面をもらったのですけれども、ちょっとよくわからないのです。ということは、この図面をいただきたいのです。大ききで、いわゆる小さ過ぎてわからないから。

それで設計についてなんですけれども、これポンプの揚程というのは、吸い込みは吸い込み、揚程というのはそこから上へ上がるものだけを揚程というのです。吸い込みは全然別な話なのです。排水機なのです、吸い込みは全然別、上へどのくらい上がるかという、そういうものが本来のポンプの設計なんです。

それで断面積を言っているのはどうかというと、あとで7トン足すと21トンになるけれども、その断面積が小さいと、ポンプのいわゆる吸う量ができなくなってしまう。だから、その図面をほしいということなのです。

○市村議長

それはよろしいですか。後ほど出ますか。

○浅川改良事務所

平面図と断面図の入っている図面でカラーのものを大きくしたもの、A3ぐらいのものでよろしいでしょうか。

○竹内委員

いや、見えればいい、こんな小さくて見えないから。それで今日だけの説明ではわからないから、よく設計してみて、できるかできないか、やってみます。もともと私は設計のほうだったから。

○浅川改良事務所

わかりました。平面と断面の入ったものをお送りします。

○竹内委員

そういうことです。それと、あとは内水対策、内水対策と言っているけれども、内水対策ではなくて、浅川の水が出たときにどうするかということで話をしているのだから、内水対策だけの問題ではないのです。だから上にダムをつくったのです。

だから、内水対策で今度は14トンという、そういった説明は要らない。全体の話をしているのです。内水の話なんて誰もしていないの、最初から。

(「いや、している」という発言あり)

いや、だから後で・・・

(「そのために来ているのだ」という発言あり)

いや、後から出た話なのだから、全体のをやらないと内水だって出てくる。そういうことです、以上です。

○市村議長

図面はまた、では送っていただくということよろしいですか。

(「ちょっと関さんの質問に答えて」という発言あり)

○浅川改良事務所

先ほどの堤防が下がっているかどうか。

（「それとハイウォーターになったときはどうするのだという、関さん、その二つ聞かれたけれども、それをちょっと」という発言あり）

○浅川改良事務所

千曲川のハイウォーターといいますか、千曲川の水位がずっと高くなって、排水ポンプは国のほうでは当然、国に入れてはいけないということをおっしゃるので、とまります。

そういった場合は、ではどうするのかということになるのですけれども、当然どうしようもないので・・・見通しもないので・・・正直な話はそうでしょう。だから県とすれば、そういう危険になるという情報を周知して早く避難してもらおうと、そういう体制をつくることだと思っております。

○竹内会員

そんなことは長沼へ行って説明したらだめですよ。では、俺の家、水浸しになってもいいのかと。

○浅川改良事務所

現実問題、ではそれだけ長時間、千曲川がそんなに高い水位を出すことがそんなにあるのでしょうかということだと思っております。何百年に一回、そういうことがあるかもしれないけれども、それを考えてどんどん堤防を高くしたり、何かをするということは膨大なお金がかかってしまいますので、やはりバランスだと思っております。どのくらいの規模で今の生活を守っていくか。

（「だめだな」という発言あり）

○市村議長

はいどうぞ、では最後の質問ということで。

○浅川改良事務所

すみません、もう一つ、お答えしなくては。

先ほど低いところで水が溢れるということなのですけれども、今回、そういうところも全て改修して農地を守れるようなことができれば、それはそれに越したことはないのですけれども。県のほうもやはり予算もないという中で、住宅への影響のない対策をとりましょうということで進めさせていただいております。それは過去にも説明させていただいてはいるので、そうすると、その場所について、今は低いかどうか、ちょっと高さの話は確認ちょっとできないんですけれども、水が溢れるという話は前もいただいております。

○関会員

堤防は、この平均につくってもらわなければいけない。

○浅川改良事務所

水が溢れるという話はあるけれども、それについては・・・

○関会員

安全弁で落とされたのでは、長沼が泣かなければならないから。

○浅川改良事務所

今までの状況はそのまま、対策を今のところする予定は今まではなかったということでございます。

○市村議長

はい、どうぞ。

○朝比奈会員

194番の朝比奈と申します。2点、質問があるのですが、1点は、浅川ダムができましたが、内水だ、外水だということは関係なく、今回のこの排水機場は必要だということで確認してよろしいですね。ダムができてしまっているから、あれは穴あきダムですが、穴あきダムでできていますが、あれは今回の14トンには役に立たないから、今回、排水機場を建設するというところでよろしいですね。これが1点です。

2点目ですが、今回の排水機場の設計ですが、あの対岸の川から千曲川に入る排水機場は国の設備ですが、あそこは水をためなくて、全て千曲川に流すようにしております。だから、あそこについては水害も起こらなくなったというふうに聞いております。

今回の設計については、水が何トンたまるか知りませんが、たまった設計にしておりますが、国の能力と長野県の能力の違いについては、国のようにはやらないということでもよろしいですね。以上、確認させていただきます・・・鳥居川・・・はい。篠井川はそのように・・・篠井川・・・対岸の川です。中野のほうです。それは私も見に行ってきましたが、水が全部増えてきた千曲川、上がってきた時点で全てポンプアップするような設計になっております。

これは何で県はそんな、このように水をためなければいけないような設計をしていたのか、早く流したほうがいいのかというふうに考えるのが普通だと思いますが、回答をお願いします。以上です。

○浅川改良事務所

2点あったかと思えます。

1点は、ダムが不要なので新たな排水機場をつくったのだと、そうかというご質問。もう一つは、対岸にあります篠井川の、国土交通省がつくっております排水機場と今回の第三排水機場との排水の違いということかと思えます。

1点目につきましては、どのような雨の降り方をしてくるかというところで変わってきます。ダムができたことによって内水を助長するということもあります。逆にダムがあることによって守られるということもあります。危険を助長する部分を今回、排水機場をつくることによって守るという形のことも一つにありますので、朝比奈さんが言っている内容については、そういう点では正しいと思います。

2点目なのですけれども、ちょっとその対岸の国の排水機場の関係がどのようなものかというのが、ちょっと私、理解しておりませんで、正しい回答になっているかわかりませんが。

浅川の河床自体は非常に緩やかでして、1,200分の1という非常に緩やかなものでして、千曲川からのバックウォーターが非常に影響してくる。逆に近くにあるのですけれども、下流側にあります鳥居川については河床勾配がありますので、それほど上がってこないというところもあるのかなと思います。

そういった話の中で、通常の排水を行う考え方に基づいて排水機場をつくっております。すみません、ちょっと的確な回答かどうかわかりませんが、よろしく願います。

## 5. 閉 会

### ○市村議長

よろしいですか。時間もちょうど来ましたので、これ9時までということで借りていますので、いろいろあったらまた文章で県のほうにお聞きをしていただくということで、本日はこれをもって流域協議会を終了させていただきます。

最後にいろいろなご意見ありましたけれども、要は幅広い選択肢をやっぱり持っていただくと、治水に対して。それで私も流域協議会でさんざんた、いわゆる遊水地という問題は、いろいろお金の問題、その他ありますが、やはり思考の外に置かないで考えていただくということで、流域協議会の座長としてやっぱり治水対策として、やっぱり下流の皆さんの、床上浸水でもやむを得ないというようなことをなくすということが大事なことなので、それには遊水地という問題はぜひ必要ではないかなということは常々考えていますので、これは県のほうとしても思考の外には置かないで考えていただきたいというふうに思います。

では、今日はこれをもって終了させていただきます。ありがとうございました。

### ○出席者

次回のスケジュールがわかったら教えてください。

### ○市村議長

今のところ未定でございます。